

令和3年度
山口情報芸術センター 事業報告書
～「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセス～

令和4年9月
公益財団法人 山口市文化振興財団

本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、令和3年度の山口情報芸術センターの事業活動を体系別にとりまとめたものです。

そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通じた人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。

今後も、この施設で様々な人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。

ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、鑑賞者等すべての方々に、深く感謝申し上げます。

令和4年9月
山口情報芸術センター
館長 磯部 素男

目次

令和3年度山口情報芸術センター収支決算	2
令和3年度山口情報芸術センター組織図	2
令和3年度山口情報芸術センター事業概要	3
[1] アート	4
[2] 教育普及	20
[3] 地域開発	22
[4] ラボ	24
[5] シネマ	26
[6] 施設利用状況	36
[7] その他特記事項	36
主な関連新聞記事	37
(参考資料) 山口情報芸術センターの活動成果	45

令和3年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。

自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1 施設維持管理費

(支出の部)

科 目	決 算 額 (円)
施設費	174,707,603

*主な支出は、

①市立図書館を含めた施設全体に係る電気・ガス・上下水道の光熱水料費(50,259千円)

②施設全体に係る清掃・空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費(85,743千円)です。

*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2 自主事業費

(収入の部)

科 目	決 算 額 (円)	備 考	構成比(%)
チケット収入等	10,489,700	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	3.4
助成金収入	9,937,864	文化庁等による助成金	3.3
雑収入等	14,156,228	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料、業務委託料等	4.6
補助金等収入	270,556,583	山口市からの自主事業実施に係る補助金、委託金	88.7
合 計	305,140,375		100

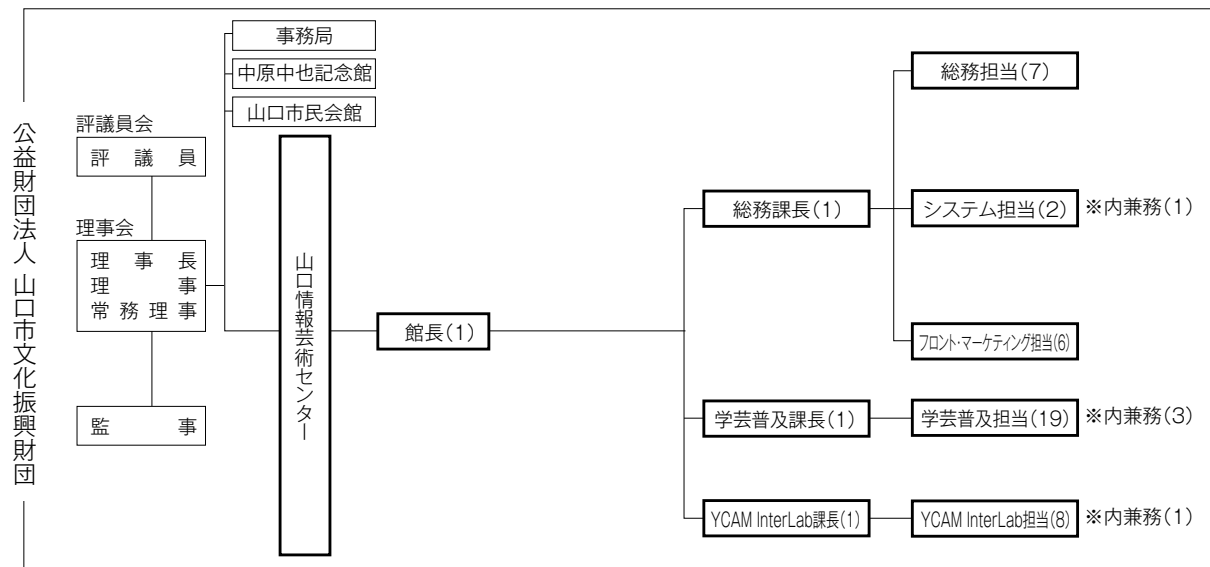
*チケット収入は収入全体の3.4%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

(支出の部)

科 目	決 算 額 (円)	備 考	構成比(%)
人件費	139,542,645	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	45.7
アート	84,966,403	アート企画展、ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	27.8
教育普及	2,124,430	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	0.7
地域開発	6,572,352	調査活動、ワークショップ等に係る経費	2.2
ラ ボ	5,343,353	研究開発等に係る経費	1.8
シネマ	18,127,683	シネマ上映等に係る経費	5.9
共通事業費等	48,463,509	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等その他経費	15.9
合 計	305,140,375		100

令和3年度山口情報芸術センター組織図(令和3年4月1日現在)

※職員数 41人



令和3年度 山口情報芸術センター概要

1 山口情報芸術センターについて

山口情報芸術センター・通称「YCAM（ワイカム）」は、展示空間のほか、劇場、映画館、図書館、ワークショップ・スペースなどを併設したアートセンターです。2003年11月1日の開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動しており、展覧会や公演、映画上映、ワークショップなど、多彩なイベントを開催しています。

現在、私たちを取りまく社会では、コンピューターや通信技術、映像などによる「メディア・テクノロジー」が目まぐるしいスピードで進化しています。これにより、私たちの生活はあらゆる局面で情報化が進み、コミュニケーションのあり方も大きく変わりつつあります。

こうした変化は、経済活動や社会構造の変化へとつながり、「情報化社会」や「グローバル社会」などと呼ばれる、人類がかつて体験したことのない社会的状況をつくり出しました。またその変化は、個人レベルの身体感覚やリアリティ、想像力にも影響を及ぼし、それらを基盤とした新しい表現が世界中で生み出されています。

YCAMは、このような背景のもとに生まれた新しいスタイルのアートセンターです。

市民や様々な分野の専門家とともに作り、ともに学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について、幅広いアプローチで探求をおこなっています。

また、近年ではアートの視点から地域の魅力を掘り起し、新たなつながりや価値を創出し、文化振興の枠を超えてまちの賑わいや中山間地の振興などの地域課題にも取り組んできました。

そして、この過程で生み出される表現や学びを世界に向けて発信し、次世代を担う人材の育成に寄与することを目指しています。

今後も「R&D（研究開発：Research & Development）プロジェクト」と呼ばれる形態を中心に、「YCAMでなければ生み出せないオリジナル作品の制作」「メディア・テクノロジーと市民をつなぐ教育プログラムの提供」「地域の課題や資源とメディア・テクノロジーの融合」の3点を重視しながら様々な事業を実施していきます。

2 事業の概況

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国的に多くの公演やイベントが中止となるなど、文化芸術分野においては、引き続き厳しい環境となりました。

YCAMでは、オンラインを活用して事業実施に取り組むとともに、シネマ事業では、過去最多の年間入場者数となるなど、感染症対策を講じながら、市民が安心して文化に触れる機会を提供しました。

また、YCAMの教育プログラムをもとに、市教育委員会と連携して、市内の小中学校において「未来の山口の授業 at School 2021」を実施しました。

なお、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、下記のとおり施設の臨時休館をおこないました。

臨時休館 8月28日～9月26日

（チケット販売や9月27日以降の貸館受付などの窓口業務は通常営業）

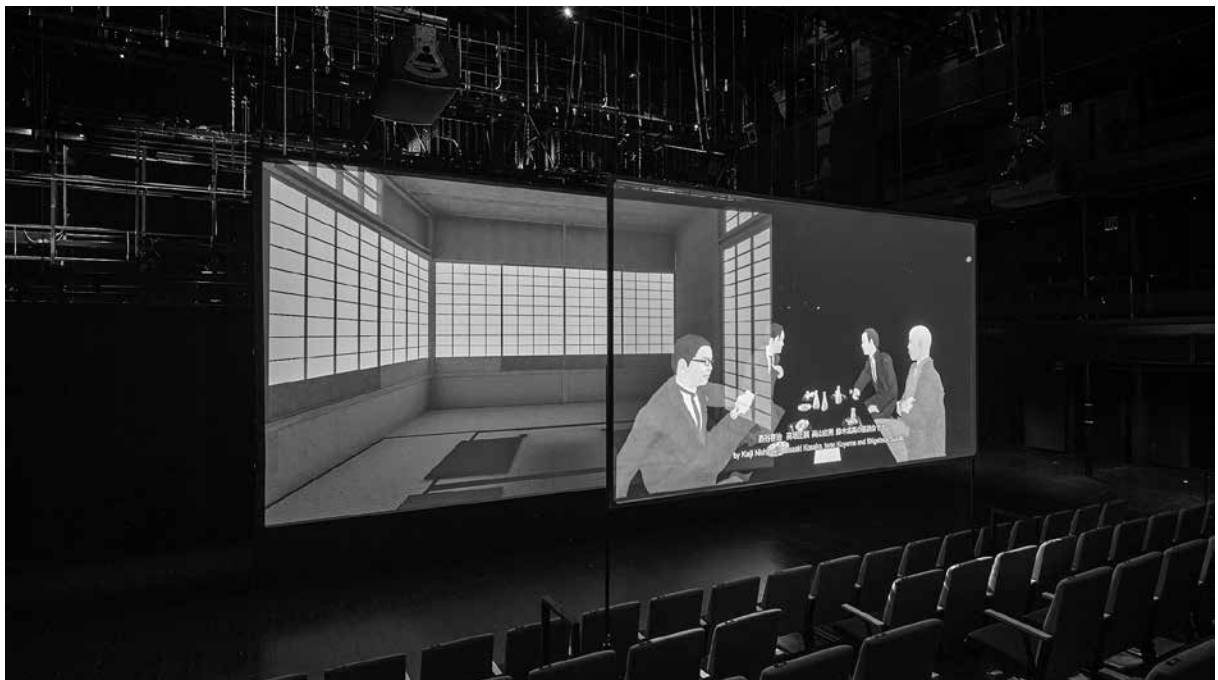
3 各事業総括表

事業区分	事業数	入場者数（名）	視聴回数（回）
[1] アート	10	35,873	6,936
[2] 教育普及	5	752	0
[3] 地域開発	3	259	2,685
[4] ラボ	1	0	492
[5] シネマ	4	12,358	0
[6] 貸館（件数）	8	6,816	0
合 計	31	56,058	10,113

*[1]アート事業には、パフォーミングアーツ事業も含まれます。

*事業区分・事業数の詳細については、次頁からの個別事業（実施月順）の内容をご覧ください。

[1] アート **ART**



1 quartets online 撮影：谷康弘

2 ホー・ツーニエン ヴォイス・オブ・ヴォイダー 虚無の声 撮影：三嶋一路

1 quartets online

開催日:令和2年9月9日(水)~※開催期間を延長して実施

会場等:インターネット(特設ウェブサイト)

視聴回数:2,522回(4月1日~3月末時点)(無料)

アーティスト:大友良英、平川紀道、木村友紀、石川高、一楽儀光、ジム・オルーク、カヒミ・カリィ、Sachiko M、アクセル・ドゥナー、マーティン・ブランドルマイヤー、YCAM

2008年にYCAMが発表した大友良英らのインスタレーション作品を再構成し、昨年度に引き続き発表しました。

2 ホー・ツーニエン ヴォイス・オブ・ヴォイド—虚無の声

開催日:4月3日(土)~7月4日(日)

会場等:YCAMスタジオA

入場者数:1,806人(無料)

アーティスト:ホー・ツーニエン

シンガポールを拠点に活躍するアーティスト、ホー・ツーニエンによる展覧会では、哲学者の西田幾多郎を中心に形成され、1930年代から40年代にかけて日本の思想界に大きな影響力をもった「京都学派」をテーマに、新作インスタレーションを発表しました。

本作では、師と弟子、講演者と聴衆、加害者と被害者といった京都学派を取り巻く錯綜した関係が、アニメーションによって描き出され、鑑賞者は、VRによる登場人物への同一化を通して、歴史の再演を体験しました。

●アーティストと制作チームによるトーク

開催日:4月3日(土)

会場等:YCAMホワイエ

参加者数:43人(無料)

アーティストと制作チームが、作品やその制作プロセスについて語りました。

●担当スタッフによるトーク

開催日:4月10日(土)、5月1日(土)、6月5日(土)(会期中計3回)

会場等:YCAMスタジオA

参加者数:25人(無料)

担当のキュレーターやエドューケーターが、作品のコンセプトや背景について解説しました。

●サンカクトーク

開催日:4月17日(土)、5月22日(土)、6月12日(土)、26日(土)

会場等:YCAMスタジオA

参加者数:24人(無料)

作品と自分、他者の「三者」を行き来しながら対話をおこなうイベントを実施しました。

●ホー・ツーニエン新作展プレトーク 京都学派と現代

開催日:4月18日(日)

会場等:YCAMホワイエ

参加者数:53人(無料)

京都学派について研究する菅原潤をゲストに迎え、西田幾多郎や京都学派の思想について紹介しました。

●座禅体験会

開催日:5月16日(日)、30日(日)、6月20日(日)

会場等:洞春寺(山口市水の上町)

参加者数:23人(無料)

西田幾多郎の哲学的基盤の形成に、厳しい禅の修行が影響したことから、座禅の体験イベントを開催しました。

●アーティスト、ドラマトウルクとのトークセッション

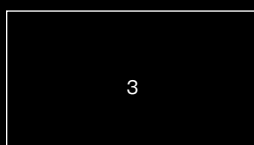
開催日:6月27日(日)

会場等:YCAMホワイエ

参加者数:63人(無料)

アーティストと、ドラマトウルクの新井知行が、展覧会や関連上映について、観客からの質問に応えました。

[1] アート **ART**



3 YCAM Dance Crew 撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

4 YCAM performance lounge #7 搬入プロジェクト 山口・中園町計画
撮影：吉見峻

3 YCAM Dance Crew

開催日:6月26日(土)~8月27日(金)※開催期間を延長して実施

会場等:YCAMコミュニティ・スペース、北西側外壁

参加者数:5,500人、動画撮影回数:1,868回(無料)

YCAMがこれまで培ってきた身体表現のノウハウを応用し、体験者が自身のダンスを撮影／加工できる体験型の展示をおこないました。

展示では、特殊なカメラとセンサーが埋め込まれた撮影用ブースを用意し、体験者の姿勢や動きを検出して、ダンスをより個性的に見せるエフェクトを付けるなど、撮影した映像を様々な演出できるようにしました。

メディアテクノロジーを切り口に、劇場文化とは接点の少ない身近なダンス動向を取り上げ、そこにある新しいダンスの表現の仕方と、今後の発展のあり方を探る展示となりました。

●メディアテクノロジーでダンスをパワーアップするワークショップ

開催日:7月10日(土)、11日(日)※2日間通し

会場等:YCAMスタジオA

参加者数:17人(無料)

若手ダンサー／振付師のReiNaとYCAMのスタッフを講師に、参加者は映像で見せるための振付の方法と、映像撮影のコツや編集方法を学び、チームに分かれて課題曲を元にダンス映像の制作をおこない、発表しました。

4 YCAM performance lounge #7 搬入プロジェクト 山口・中園町計画

開催日:7月24日(土)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:1,833回(3月末時点)(無料)

「搬入プロジェクト」とは、会場となる建物内にかろうじて入る大きさ・形状に設計された巨大な物体を、人力で館内に搬入する様子を一種の「演劇」として提示するというパフォーマンス集団・悪魔のしるしが発案した演劇プロジェクトです。コロナ禍により1年の開催延期を経て、さらにオンラインでの開催となりましたが、事前におこなったワークショップの参加者が設計した物体案から実際に搬入する物体を選定し、制作した巨大な物体を中央公園から館内1階のホワイエへと搬入しました。

演劇でありながら、テキストで書かれた「戯曲」が存在せず、また実施する場所によってパフォーマンスの内容が大きく変わる本作の上演は、鑑賞者の存在を含めたパフォーマンス・アーツの形式を改めて考える視点を提供しました。

●搬入プロジェクト 山口・中園町計画バックステージツアー

開催日:7月16日(金)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:1,116回(3月末時点)(無料)

搬入される「物体」がどのように制作されているのかといった解説や、YCAMがこれまで各地で展開してきた小規模な搬入プロジェクトに物件を提供してきた支援者らも集まり、搬入プロジェクトの魅力を語り合いました。

●搬入プロジェクト 山口・中園町計画ドキュメント

開催日:7月25日(日)~8月15日(日)

会場等:YCAMホワイエ、2階ギャラリー

入場者数:3,000人(無料)

「搬入プロジェクト 山口・中園町計画」に関連して、昨年度よりおこなってきた様々な取り組みや実験の成果を紹介する資料展示をおこないました。

●搬入プロジェクト 山口・中園町計画ドキュメント ギャラリーツアー

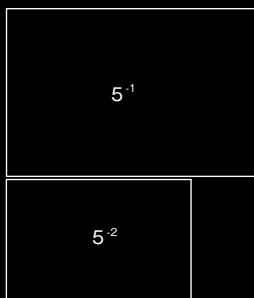
開催日:7月25日(日)、8月1日(日)、8日(日)、15日(日)

会場等:YCAMホワイエ、2階ギャラリー

参加者数:8人(無料)

担当スタッフとともに、「搬入プロジェクト 山口・中園町計画ドキュメント」を鑑賞するツアー形式のイベントをおこないました。

[1] アート **ART**



- 5¹ 坂本龍一＋高谷史郎＋YCAM
ART-ENVIRONMENT-LIFE 2021 【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】
○坂本龍一＋高谷史郎 LIFE – fluid, invisible, inaudible…
- 5⁻² 坂本龍一＋高谷史郎＋YCAM
ART-ENVIRONMENT-LIFE 2021 【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】
○坂本龍一＋高谷史郎 water state 1 撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

開催日:10月8日(金)~令和4年1月30日(日)

山口市をはじめとする山口県央連携都市圏域で開催する「山口ゆめ回廊博覧会」の一環として、音楽家の坂本龍一がアーティストの高谷史郎とのコラボレーションのもと、2013年のYCAM10周年記念祭において制作・発表した3作品をアップデートし、再展示する展覧会を開催しました。

○坂本龍一+高谷史郎 LIFE-fluid, invisible, inaudible…

会場等:YCAMスタジオA

入場者数:4,269人(無料)

アーティスト:坂本龍一(音楽家)、高谷史郎(アーティスト)

○坂本龍一+高谷史郎 water state 1

会場等:YCAMサテライトA(山口市駅通り)

入場者数:988人(無料)

アーティスト:坂本龍一(音楽家)、高谷史郎(アーティスト)

○坂本龍一+YCAM InterLab Forest Symphony

会場等:常栄寺(山口市宮野下)

入場者数:9,837人(大人300円他[常栄寺拝観料])

アーティスト:坂本龍一(音楽家)、YCAM InterLab

●ART-ENVIRONMENT-LIFE 2021ギャラリートัวร์

開催日:10月30日(土)、31日(日)、11月6日(土)、13日(土)、20日(土)、12月4日(土)、11日(土)、18日(土)、25日(土)、令和4年1月8日(土)、15日(土)、22日(土)、29日(土)

会場等:各会場

参加者数:69人(無料)

展示作品をスタッフとともに鑑賞するツアー形式のイベントを定期的を実施し、展覧会の背景にある社会的テーマや技術的動向についての解説のほか、作品について参加者同士で意見を共有しました。

●うちそと掲示板

開催日:11月13日(土)~令和4年1月30日(日)

会場等:YCAMスタジオAロビー

書き込み数:192件(無料)

鑑賞者の感想が掲出される掲示板を展示し、会期中に掲示板に感想を追加するイベントを開催することにより、時間を越えて、自分(うち)と他者(そと)のゆるやかな対話を生み出しました。

●in my conscious movement—インカムを使用した対話型鑑賞プログラム

開催日:11月19日(金)、12月11日(土)、12月18日(土)、令和4年1月9日(日)、1月16日(日)

会場等:YCAMスタジオAロビー

参加者数:38人(無料)

無線通信機(インカム)で、スタッフと意見を交換しながら鑑賞するイベントを開催しました。

作品空間内を自由に移動しながら、対話を通して芸術作品を鑑賞する手法「対話型鑑賞」をおこないました。

●感じたことをカタチにしよう~water state 1~

開催日:12月11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)、令和4年1月8日(土)、15日(土)、22日(土)

会場等:YCAMサテライトA(山口市駅通り)

参加者数:21人(無料)

「対話型鑑賞」を用いて作品を鑑賞した後に、言葉にできなかった感想や作品の印象をもとに、透明な樹脂を用いた小さなオブジェを制作しました。

[1] アート **ART**



5⁻³ 坂本龍一 + 高谷史郎 + YCAM
ART-ENVIRONMENT-LIFE 2021 【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】
○坂本龍一 + YCAM InterLab Forest Symphony
撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

5⁻⁴ 坂本龍一 + 高谷史郎 + YCAM
ART-ENVIRONMENT-LIFE 2021 【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】
●ART-ENVIRONMENT-LIFE 2021 ギャラリーツアー
撮影：塩見浩介

●《LIFE-fluid, invisible, inaudible…》で、オンライン対話型鑑賞をやってみよう!

開催日:令和4年1月5日(水)~16日(日)

会場等:インターネット(ビデオ会議システム)

参加者数:64人(無料)

オンラインで配信される様々な切り口から作品を捉えた映像をもとに、「対話型鑑賞」をおこないました。

●耳のいきつぎ

開催日:令和4年1月9日(日)、10日(月・祝)

会場等:INSIDE OUT Station(山口市道場門前旧井ビシ眼鏡店)及び山口中心商店街エリア

参加者数:9人(無料)

本展覧会の3作品の鑑賞体験にも通底する、「聴くこと」に着目したワークショップをおこない、参加者はICレコーダーで身の回りの音を探す「フィールドレコーディング」に挑戦しました。

●架空の出版社『AEL出版』企画座談会

開催日:令和4年1月23日(日)

会場等:VIVISTOP(山口市道場門前)

参加者数:6人(無料)

作品や作家にまつわる書籍を空想する参加型の座談会を開催し、架空の出版社『AEL出版』から書籍を出版するシチュエーションを想像／発表し合う中で、参加者それぞれの作品像や作家像を交換しました。

●高校生トーク-対話型哲学対話風対話

開催日:令和4年1月23日(日)

会場等:INSIDE OUT Station(山口市道場門前旧井ビシ眼鏡店)、インターネット(YouTube Live)

現地視聴者数:7人、配信視聴回数:192回(3月末時点)(無料)

やまぐちアートコミュニケータープログラムに参加した高校生のメンバーたちによるトークイベントを開催しました。

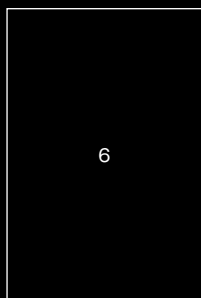
●オリジナルブレンドティーを作ろう!

開催日:令和4年1月23日(日)、29日(土)

会場等:INSIDE OUT Station(山口市道場門前旧井ビシ眼鏡店)

参加者数:10人(無料)

展覧会から得たインスピレーションをもとに、茶葉やハーブを選んでオリジナルティーを作るワークショップを開催し、味覚や嗅覚を通じた表現により、作品の世界観をより深く理解する機会を設けました。



6 原瑠璃彦+YCAM共同研究成果展示
Incomplete Niwa Archives- 終らない庭のアーカイヴ
【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】
撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

開催日:10月8日(金)~令和4年1月30日(日)

会場等:YCAM2階ギャラリー

入場者数:3,872人(無料)

研究代表者:原瑠璃彦(静岡大学)

メディアテクノロジーを用いて制作された山口市の常栄寺庭園(通称:雪舟庭)のアーカイブを体験できる展覧会をおこないました。

YCAMが2019年度から、日本庭園研究者の原瑠璃彦とともに実施している、日本庭園の新しいアーカイブを研究開発する「庭園アーカイブ・プロジェクト」の成果のひとつとして、本展では、3Dスキャンなどの映像技術や立体音響、バイオ・テクノロジーなどを駆使して収集した日本庭園の様々なデータをもとに、アーカイブを、さながら庭そのもののよう体験できるインスタレーション作品を発表しました。

●庭と山口情報芸術センター[YCAM]

開催日:10月9日(土)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:212回(3月末時点)(無料)

「庭園アーカイブ・プロジェクト」のメンバーによるトークイベントを開催しました。

●庭とウェブメディア／デザイン／アーカイブ

開催日:10月30日(土)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:145回(3月末時点)(無料)

「庭園アーカイブ・プロジェクト」のウェブサイトを開発したKARAPPO Inc.の三尾康明と寺田直和によるトークイベントを開催しました。

●庭と空間／身体性／アーカイブ

開催日:11月13日(土)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:181回(3月末時点)(無料)

展覧会の展示を制作したALTEMYの津川恵理と戸村陽、プログラマーの白木良によるトークイベントを開催しました。

●日本庭園のアーカイブの歴史と未来

開催日:12月11日(土)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:217回(3月末時点)(無料)

東京農業大学の栗野隆、京都産業大学のエマニュエル・マレスによるトークイベントを開催しました。

●庭と映像／アーカイブ

開催日:令和4年1月30日(日)

会場等:YCAMスタジオC

参加者数:46人(無料)

アーティスト・映像作家の澤崎賢一、日本庭園研究者のエマニュエル・マレス、原瑠璃彦によるトークイベントを開催し、展覧会のアーカイブの諸問題をめぐって多角的に議論しました。

[1] アート **ART**



7 小泉明郎 縛られたプロメテウス 撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)

8 セラム クリクラブー移動する教室 撮影：谷康弘

7 小泉明郎 縛られたプロメテウス

開催日:10月23日(土)、24日(日)計20公演
会場等:YCAMスタジオB
入場者数:272人(前売一般2,000円他、当日一般2,500円他)
アーティスト:小泉明郎(アーティスト)

演劇、音声、映像など複数の手法を巧みに組み合わせた作品で高い評価を受けるアーティスト、小泉明郎による、VRを用いた体験型の演劇作品の公演をおこないました。

本作では、観客はヘッドマウントディスプレイを装着して会場内を自由に歩き回り、どこからか聞こえてくる「声」に耳を澄ませます。

未来において、私たちの身体はテクノロジーとどのような関係を結んでいくのか、本作は、VRと演劇を通じて、人間の生命活動のあり方を問いかける作品となりました。

●アーティストトーク

開催日:10月24日(日)
会場等:YCAMスタジオC
参加者数:48人(無料)
アーティストの小泉明郎と、美学・表象文化論研究者の星野太によるトークイベントを実施しました。

8 セラム クリクラボー移動する教室

開催日:10月30日(土)～令和4年2月27日(日)※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催期間を変更
会場等:YCAMホワイエ
入場者数:4,361人(無料)
アーティスト:セラム(アーティスト・コレクティブ)

インドネシアのジョグジャカルタを拠点に活動するアーティスト・コレクティブ、セラムによる展覧会をおこないました。

人と人との対話を促すセラムの3つの作品、「クリクラボ」「理想の学校」「知識のマーケット」で構成される本展では、様々なトピックや形式によりイベントを展開しました。

来場者は自らそのイベントに参加できるほか、会場に展示されたイベントの記録から他者の意見に触れたり、その展示に自身の意見を残したりすることもでき、全体を通じて多様な価値観や知恵が蓄積され、共有された展覧会となりました。

●知識のマーケット

開催日:10月30日(土)、令和4年1月15日(土)、2月27日(日)
会場等:YCAMホワイエ
参加者数:60人(無料)

「すべての人は先生であり、すべての人は生徒である」という考えのもと、参加者同士が1対1となって、「学ぶ側」と「教える側」を相互に入れ替えながら、対話を通じて知識の交換をおこないました。

●クリクラボ ガalleryツアー

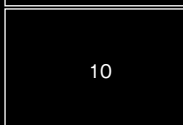
開催日:10月31日(日)、令和4年1月16日(日)、2月23日(水・祝)
会場等:YCAMホワイエ
参加者数:18人(無料)

キュレーターをはじめとする制作スタッフとともに、展覧会を鑑賞するツアー形式のイベントを開催し、アーティストや展覧会の背景についての紹介のほか、作品についてのディスカッションをおこないました。

●アーティストによるクロージングトーク

開催日:2月27日(日)
会場等:YCAMホワイエ、インターネット(YouTube Live)※セラムはインドネシアからオンラインでの参加
現地視聴者数:18人、配信視聴回数:84回(3月末時点)(無料)
展覧会最終日にセラムによるトークイベントを開催し、展覧会開催までの制作プロセスを振り返りながら、本展をYCAMで開催した意義や、課題、展示期間中の来場者の反応などを紹介しました。

[1] アート **ART**



9 sound tectonics #25 VERNACULAR VIBES 撮影：ヨシガカズマ

10 食と倫理リサーチ [リサーチ・ショーケース] 撮影：ヨシガカズマ

9 sound tectonics #25 VERNACULAR VIBES

開催日:12月4日(土)

会場等:YCAMスタジオB

入場者数:56人(前売一般2,500円他、当日一般3,000円他)

アーティスト:サビナ・アン(アーティスト)、エレクトロニコス・ファンタスティコス!

サウンドアートや音楽など音に関する異なる領域から、新しい聴取体験を提供するライブコンサートシリーズの第25弾を開催しました。

今回は、日用品など身の回りに溢れた様々な要素から音楽も含めたサウンドを生み出すことをテーマに、身近なものを素材にしつつ、対照的なアプローチを取る2組のアーティストのパフォーマンスを通じて、サウンド制作における生活に深く根ざした側面と、サウンドの中にある無限の可能性を体験する機会となりました。

10 食と倫理リサーチ[リサーチ・ショーケース]

開催日:令和4年1月15日(土)~6月12日(日)※開催期間を延長して実施

会場等:YCAMコミュニティ・スペース

入場者数:1,050人(3月末時点)(無料)

「食」とそれを取り巻く倫理的側面との関係について調査研究するプロジェクト「食と倫理リサーチプロジェクト」の研究発表を展示をおこないました。

展示では、今日の食を取り巻く課題や、それに対する実践を紹介することに主眼を置き、展示物はプロジェクトに関連する人物へのインタビュー映像と、関連する資料や書籍を紹介するコーナーで構成しました。

また、食にまつわる対話を促すためのプラットフォームとして、来場者にはコメントなども記入いただきました。

●食と倫理についてパーソナル・バイオテクノロジーの観点から考える

開催日:令和4年2月21日(月)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:260回(3月末時点)(無料)

国内で市民に開かれたバイオラボの運営をしたり、フリーランスでバイオテクノロジーの研究をされている方々を招き、食と倫理についてパーソナル・バイオテクノロジーの観点から語り合うオンライントークイベントを開催しました。

●食と倫理についてアーティスティック・リサーチの観点から考える

開催日:令和4年3月7日(月)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:174回(3月末時点)(無料)

「食と倫理リサーチプロジェクト」にコラボレーターとして参加しているアーティストやデザイナー、文化人類学の研究者を招き、食と倫理についてアーティスティック・リサーチの観点から語り合うオンラインのトークイベントを開催しました。

[1] アート **ART**



1

2

- 1 浪曲×映画 ※関連企画のトークでの様子 撮影：ヨシガカズマ
- 2 近藤芳正 Solo Work「ナイフ」 水戸芸術館での初演時の様子
撮影：田中亜紀 提供：水戸芸術館

山口情報芸術センター事業とは別に、YCAMが技術協力または企画制作で参加した舞台公演等をご紹介します。

○浪曲×映画

主催:公益財団法人山口市文化振興財団
開催日:10月16日(土)~17日(日)
会場等:YCAMスタジオC
入場者数:154人

落語・講談とならび日本三大話芸の一つである“浪曲”を取り入れた浪曲映画を、浪曲実演付きで上映するイベントを開催。玉川奈々福(浪曲師)、沢村さくら(浪曲三味線)、坂本頼光(活動写真弁士)を招いて、映画上映後に浪曲の実演、また活弁付きでのサイレント映画の上映をおこないました。

●浪曲ワークショップ

開催日:10月16日(土)
会場等:YCAM楽屋7・8
参加者数:15人(500円)
玉川奈々福を講師に迎え、参加者が浪曲の一節を声に出して体験するワークショップを開催しました。

○近藤芳正 Solo Work「ナイフ」

主催:公益財団法人山口市文化振興財団
開催日:令和4年2月13日(日)
会場等:YCAMスタジオA
入場者数:358人

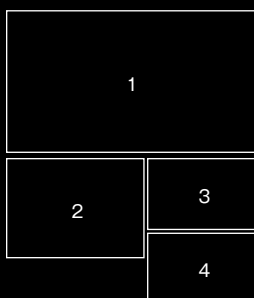
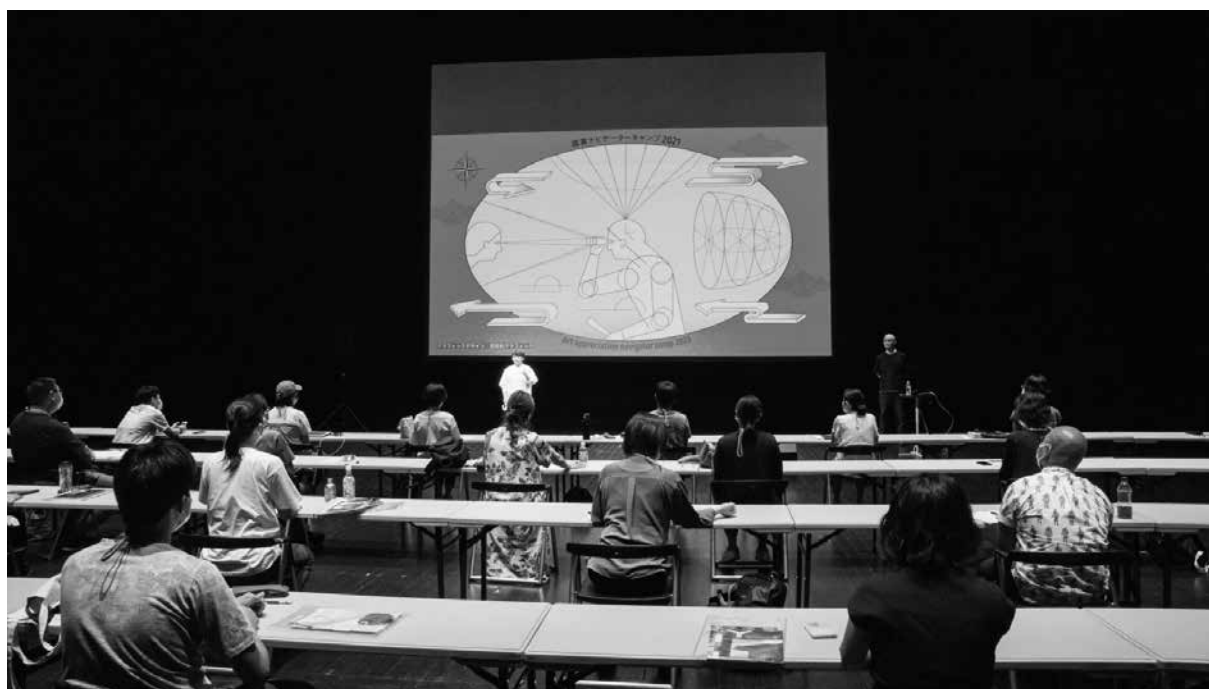
映画、テレビドラマ、舞台など幅広く活躍する俳優・近藤芳正によるひとり芝居を上演しました。人気作家・重松清の短編小説「ナイフ」で描かれるいじめに向きあう家族の物語を、山田佳奈(口字ツク主宰)の脚本・演出で舞台化した本作。父親や中学生の息子、妻など、性別や年齢の異なるすべての登場人物を、息遣いや筋肉の動かし方で演じ分けていく近藤芳正の鬼気迫る演技を目の前に、観客は釘付けとなりました。

●近藤芳正による演劇ワークショップ

開催日:12月11日(土)
会場等:YCAMスタジオB
参加者数:18人(500円(高校生無料))
近藤芳正を講師に迎え、演劇経験者を対象とした実践的な演劇ワークショップを開催しました。

●朗読ワークショップ「ナイフ」を読んでみよう!

開催日:令和4年1月29日(土)
会場等:YCAM楽屋7・8
参加者数:16人(無料)
市内で演劇活動をおこなう劇団シバイスを講師に迎え、原作の小説「ナイフ」を朗読するワークショップを開催しました。



- 1 鑑賞ナビゲーターキャンプ 2021 撮影：谷康弘
- 2 わたしもアートがわからない vol.1 「わからない」を紐解く
撮影：谷康弘
- 3 山口県立美術館連携企画 見ないほうがよくみえる【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】
撮影：ヨシガカズマ
- 4 未来の山口の授業 ネットにくらす、わたしのひみつ 撮影：塩見浩介

1 鑑賞ナビゲーターキャンプ2021

開催日:8月7日(土)、8日(日・祝)※2日間通し

会場等:YCAMスタジオA

参加者数:27人(参加費8,000円)

講師:伊達隆洋

鑑賞教育の専門家で研究者の伊達隆洋を講師に迎えて、対話を通して芸術作品を鑑賞する手法「対話型鑑賞」を取り上げ、その手法や効果をレクチャーやワークショップを通じて学びました。

美術館の教育普及プログラムに携わる人をはじめ、双方向的な授業の設計を目指す教師、企業内での人材育成や研修などチームビルディングに携わる方など、様々なバックグラウンドの参加者へ対話型鑑賞の基本から実践までを本格的に学ぶ機会を提供しました。

2 わたしもアートがわからない vol.1「わからない」を紐解く

開催日:10月9日(土)※新型コロナウイルス感染症の影響により、当初令和4年2月5日(土)に開催予定の vol.2は、次年度に延期

会場等:インターネット(ビデオ会議システム)

参加者数:43人(無料)

講師:会田大也

これまで数多くの教育プログラムを手がけてきたYCAM学芸普及課長の会田を講師に、「わからない」の種類を細かく紐解くことで、作品鑑賞の際に「どのように作品をみたらよいかわからない」と思ったことがある人に向けて、その感覚を出発点に、作品の魅力を発見する「コツ」を学ぶ機会を提供しました。

3 山口県立美術館連携企画 見ないほうがよく見える【山口ゆめ回廊博覧会関連事業】

開催日:11月12日(金)

会場等:インターネット、山口県立美術館展示室A

参加者数:15人(現地5人、オンライン10人)(無料)

山口県立美術館との共催により、他者との対話を通じて、美術作品を深く鑑賞するワークショップを実施しました。山口県立美術館に所蔵されている雪舟の作品を題材に、参加者が2人1組のペアとなって「ブラインドトーク」と呼ばれる鑑賞体験をおこない、作品を前に、作品を見る人と見ない人が共存する特殊な状況をあえて生み出しました。

ペアの相手から伝えられた情報を踏まえて、鑑賞した作品についての感想を述べていくことで、参加者から作品への新しい解釈が生み出され、それらを手がかりに雪舟作品の持つ魅力に迫りました。

4 未来の山口の授業 ネットにくらす、わたしのひみつ

開催日:11月20日(土)、21日(日)、27日(土)、28日(日)、12月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日)、令和4年1月8日(土)、9日(日)、22日(土)、23日(日)

会場等:インターネット(ビデオ会議システム)

参加者数:26人(無料)

インターネットにおける自身と他者との「見えないコミュニケーション」について学ぶオリジナルの教育プログラムを開発、提供しました。

このプログラムでは、SNSにおける写真投稿を例に、参加者が情報の発信者と受信者の両方の立場を体験していきます。そこから分かったことを話し合うことで、情報の送信者と受信者、双方の立場の特性を再考していきます。

一連のアクティビティを通じて、インターネットにおけるコミュニケーションの特性を理解するとともに、利便性を確保しながら、自分自身を守り、周囲の人々の判断を尊重するための思考や技術について考えを深めました。

5 学校向け体験ツアープログラム YCAM情報社会見学 for School

開催日:通年

会場等:YCAM館内各所

参加者数:17校(641人(500円※市内児童は無料))

情報社会を構成している新しいテクノロジーを実際に体験し、これからの生活におけるテクノロジーとの付き合い方について考える学校向け館内ツアープログラムを通年でおこなっています。

小学校4年生以上を対象に、これまでYCAMが開発した様々な装置の体験や、普段はなかなか入ることのできない劇場のしくみ、作品に使用するシステム、アーティストやスタッフの仕事の様子などを分かりやすく案内しました。



1	3 ⁻²
2	
3 ⁻¹	

1 YCAM スポーツ共創実験スタジアム 2021 撮影：谷康弘

2 第6回 未来の山口の運動会 撮影：谷康弘

3⁻¹ 未来の山口の授業 at School 2021
【やまぐち子ども未来型学習プロジェクト】
○未来の渦上中の運動会 撮影：塩見浩介

3⁻² 未来の山口の授業 at School 2021
【やまぐち子ども未来型学習プロジェクト】
○生雲の360°図鑑

1 YCAMスポーツ共創実験スタジアム 2021

開催日:5月2日(日)～5日(水・祝)※4日間通し

会場等:YCAMスタジオB、山口市中央公園、インターネット(YouTube Live)

現地参加者数:22人、配信視聴回数:1,148回(3月末時点)(無料)

講師:西翼(キュレーター)、犬飼博士(ゲーム監督/eスポーツプロデューサー)、運動会屋、運動会協会

新しいスポーツを複数人の協働により開発する「スポーツ共創」の手法や、その応用について、身体を動かしながら学ぶ4日間のイベントをおこないました。

本イベントでは、参加者はイベント企画者の立場で、各自が属するコミュニティでスポーツ共創の要素を盛り込んだイベントを実現すべくその計画を練り上げていきます。

この過程で、従来の「YCAMスポーツハッカソン」で実施した「デベロッパレイ」と呼ばれる制作手法を用いて、まだ見ぬ新しい運動会種目を開発し、開発した種目を実際に楽しむ運動会「第6回 未来の山口の運動会」を設計しました。

2 第6回 未来の山口の運動会

開催日:5月4日(火・祝)

会場等:インターネット(YouTube Live)

視聴回数:1,537回(3月末時点)(無料)

「YCAMスポーツ共創実験スタジアム2021」で生み出されたスポーツを実施する運動会形式のイベントで、6回目の開催となった今回も様々なアイデアが詰め込まれた「未来の運動会」の種目が多数登場しました。

2019年までの「未来の山口の運動会」は、YCAMを会場に多くの参加者を募集して開催していましたが、今回は「YCAMスポーツ共創実験スタジアム2021」の参加者が運動会を実施している様子をYouTube Liveで生配信する形式とし、一部をオンライン参加種目としました。

3 未来の山口の授業 at School 2021【やまぐち子ども未来型学習プロジェクト】

開催日:通年

文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」をふまえ、子どもたちの創造性を育むICT教育環境の実現に向け、山口市教育委員会と連携して「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」の一環として「未来の山口の授業 at School 2021」を実施しました。

初年度となる令和3年度は、渦上中学校と生雲小学校をモデル校に設定し、YCAMがこれまで培った知見を活かしながら、ICT機器やメディアテクノロジーを活用した学習プログラムを構築/実践したほか、YCAMのスタッフが講師となり、新たな教育モデルを実践していくための教員向け講習をおこないました。

○未来の渦上中の運動会

会場等:渦上中学校

参加者数:118人

○生雲の360°図鑑

会場等:生雲小学校

参加者数:19人

○100人の先生と考える未来の山口の授業

会場等:YCAM旧レストランスペース、インターネット(ビデオ会議システム)

参加者数:100人(無料)

[4] ラボ LAB



1 YCAM オープンラボ 2021 オルタナティブ・エデュケーション

1 YCAMオープンラボ2021 オルタナティブ・エデュケーション

開催日:11月26日(金)~令和4年2月26日(土) ※新型コロナウイルス感染症の影響により、開催期間と実施形態を変更
会場等:インターネット(特設ウェブサイト)
視聴回数:492回(3月末時点)(無料)

今日におけるアートや研究開発、公共文化施設のあり方を捉え直すオンラインのトークイベントをおこないました。
5回目となる今回は、前回同様、会場をオンラインに移し、「アートを通じた学びの可能性」や「社会におけるアートセンターの役割」をテーマに開催。
表現やテクノロジーを日常生活のためのツールとして用いたり、様々な学びの手法に取り組むクリエイターやキュレーター、教育者、研究者などの実践者たちを国内外から招き、レクチャーとトークセッションをおこないました。

○アートから何を学ぶことができるか？

登壇者:堀内奈穂子、津口在五

○アートの有用性

登壇者:ジョン・バーン

○分かち合う価値

登壇者:ファリード・ラクン、ゲシヤダ・シレガル

○ミュージアム 3.0

登壇者:アリスティア・ハドソン

○豊かさとはなにか？

登壇者:内田友紀(make:fuKUI / XSCHOOL)、三尾康明(ななめな学校)、森脇千種(代官山ティーンズクリエイティブ)、岡磨理絵(代官山ティーンズクリエイティブ)、上田假奈代(NPO法人こえとことばとこころの部屋cocoroom)、中脇健児(場とコトLAB(モデレーター))

○公共とはなにか？

登壇者:明日香健輔(阿東文庫)、三浦大紀(GOつくる大学)、益田文和(株式会社オープンハウス)、中脇健児(場とコトLAB(モデレーター))

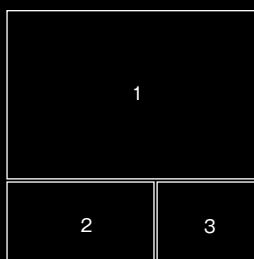
○物語を紡ぐ

登壇者:明日香健輔(阿東文庫)、三浦大紀(GOつくる大学)、益田文和(株式会社オープンハウス)、中脇健児(場とコトLAB(モデレーター))

○アートでいかに学ぶか？

登壇者:堀内奈穂子、津口在五

[5] シネマ CINEMA



- 1 真夏の夜の星空上映会 2021 撮影：谷康弘
- 2 YCAM 爆音映画祭 2021 撮影：谷康弘
- 3 ショートフィルムフェスティバル in YCAM supported by ShortShorts
●映画を2回観る会 撮影：塩見浩介

1 真夏の夜の星空上映会2021

開催日:8月15日(日)※8月13日、14日は雨天により中止
会場等:山口市中央公園
入場者数:209人(無料)
上映作品:「ジュマンジ/ネクスト・レベル(日本語吹替版)」

YCAMに隣接する中央公園で開催する毎年恒例の野外上映イベントで、新型コロナウイルス感染症対策として、昨年度と同じく各日70組に制限して実施しました。

雨天により8月13日と14日の上映は中止となってしまいましたが、8月15日は心地よい夜風と星空の下、映画「ジュマンジ/ネクスト・レベル(日本語吹替版)」の鑑賞を、親子連れなど多くの方々に楽しんでいただきました。

2 YCAM爆音映画祭2021

開催日:8月27日(金)※施設の臨時休館に伴い、8月28日と29日は開催を中止
会場等:YCAMスタジオA
入場者数:198人(前売一般1回券1,300円、前売一般3回券3,600円他)
上映作品:「スパイの妻」「鷺島湖(がちょうこ)の夜」「デニス・ホー ピカミン・ザ・ソング」「ストーリー・オブ・マイライフ/わたしの若草物語」

ライブ・コンサート向けの大規模かつ高品質なスピーカーを用いて映画を鑑賞する、毎年恒例の上映イベントを開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大のため、8月28日から施設が臨時休館したことに伴い1日のみの開催となりましたが、作品内で追求されているサウンド面の「核心」を物語や画面上の構成とともに体感する、これまでにない映画体験を多くの方々に楽しんでいただきました。

●YCAM爆音映画祭2021バックステージツアー

開催日:8月27日(金)
会場等:YCAMスタジオA、スタジオC
入場者数:25人(要チケット)
映画評論家・音楽評論家でboid主宰の樋口泰人を講師に迎え、映画における音の魅力を探るツアー形式のイベントをおこないました。

3 ショートフィルムフェスティバル in YCAM supported by ShortShorts

開催日:令和4年2月11日(金)～13日(日)計8プログラム
会場等:YCAMスタジオC
入場者数:300人(前売一般800円他、一般1,000円他)
上映作品:Aプログラム「ボガビラのバス」「クレオパトラの鼻」「絶対割れない花瓶」「石像の大きな冒険」、Bプログラム「ポップー!」「試合」「一本の線」「途切れない電話」「合唱」、Cプログラム「不思議な黒いシミ」「見下ろすとそこに」「11月1日」「宇宙の恋」「向かいの窓」、Dプログラム「ヨシの肉屋」「最後の試験」「氷点下」「カマリ」「スター誕生」

劇場のスクリーンで見る機会の少ない、世界の短編映画を上映するイベントを開催しました。

1999年から日本各地で開催されている米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」(SSFF&ASIA)と連携して、選りすぐりの短編映画20本を県内初上映しました。

アニメーション、劇映画、ドキュメンタリー作品といった、多様なジャンルの世界中の優れた短編映画を気軽に鑑賞できる本イベントを通じて、世界各国の多様な文化に触れるとともに、幅広い年代に、劇場で映画に触れる楽しみを感じてもらう機会を提供しました。

●映画を2回観る会

開催日:令和4年2月11日(金)、12日(土)
会場等:YCAMスタジオC
参加者数:16人(無料)
映画作品の魅力をより深く楽しむための鑑賞法を体験し、批評的な視点を養うことを目的として、短編作品を、ナビゲーターによる解説や参加者同士の感想共有を間に挟んで2度鑑賞するワークショップ形式のイベントを開催しました。

4 YCAMシネマ

会場等:YCAMスタジオC

料金:一般1,300円他

山口県内では上映される機会の少ない映画作品をプログラムの中心とし、作家やテーマ別といったYCAMオリジナルの特集上映を通年で実施しました。また、映画監督や出演者、評論家を招いたトークイベントも定期的に開催しました。

●笑う新年度に福きたる

開催日:4月1日(木)~16日(金)

入場者数:152人

上映作品:「声優夫婦の甘くない生活」「チャンシルさんには福が多いね」

●誰も、ひとりぼっちにさせへん

開催日:4月1日(木)~17日(土)

入場者数:119人

上映作品:「心の傷を癒すということ」

●セルゲイ・ロズニツァ〈群衆〉ドキュメンタリー3選

開催日:4月3日(土)~11日(日)

入場者数:159人

上映作品:「国葬」「肅清裁判」「アウステルリッツ」

●原一男が追ったニッポン

開催日:4月14日(水)~21日(水)

入場者数:134人

上映作品:「れいわ一揆」「ゆきゆきて、神軍」

【関連】原一男トークイベント(映画「れいわ一揆」関連イベント)

開催日: 4月18日(日)

登壇者:原一男(映画監督)

●苦しみが光になるとき

開催日:4月21日(水)~5月5日(水)

入場者数:628人

上映作品:「フジコ・ヘミングの時間」「瞽女GOZE」「37セカンズ」「パリの調香師 しあわせの香りを探して」

●なぜ大統領を暗殺したのか?

開催日:4月24日(土)~5月5日(水)

入場者数:181人

上映作品:「KCIA南山の部長たち」

●交差するアイデンティティ

開催日:5月5日(水)~10日(月)

入場者数:215人

上映作品:「ミッドナイトスワン」

●ホー・ツーニエン「ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声」関連上映

開催日:5月7日(金)～5月23日(金)

入場者数:341人

上映作品:「東京裁判〈4Kデジタルリマスター版〉」「戦場のメリークリスマス〈4K修復版〉」「細雪」「桃太郎 海の神兵」

【関連】トークイベント

開催日:5月7日(金)、5月8日(土)、5月14日(金)、5月23日(日)

登壇者:会田大也(アーティストック・ディレクター)、吉崎和彦(キュレーター)

●わたしらしく、闘う

開催日:5月19日(水)～29日(土)

入場者数:64人

上映作品:「バピチャ 未来へのランウェイ」

●新しい音楽鑑賞の形

開催日:5月19日(水)～6月4日(金)

入場者数:181人

上映作品:「甦る三大テノール 永遠の歌声」

●大森立嗣監督特集

開催日:5月20日(木)～6月6日(日)

入場者数:340人

上映作品:「星の子」「MOTHERマザー」「日は好日(にちにちこれこうじつ)」

●ドイツの歴史と闇、芸術の光

開催日:5月22日(土)～6月5日(土)

入場者数:118人

上映作品:「ある画家の数奇な運命」

●尊敬と愛情の風景

開催日:6月9日(水)～7月4日(日)

入場者数:256人

上映作品:「わたしの叔父さん」「サンドラの小さな家」「音響ハウス Melody-Go-Round」

●理想の生き方、死に方

開催日:6月9日(水)～7月4日(日)

入場者数:416人

上映作品:「ムヒカ 世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ」「痛くない死に方」

●狂おしき愛の詩

開催日:6月9日(水)～7月4日(日)

入場者数:213人

上映作品:「愛のコリーダ〈修復版〉」「水を抱く女」

●香港を見つめて

開催日:6月23日(水)～7月3日(土)

入場者数:170人

上映作品:「淪落の人」「香港画」

【関連】堀井威久磨+前田穂高オンライントークイベント

開催日:6月27日(日)

登壇者:堀井威久磨(映画監督)、前田穂高

●「ヴォイス・オブ・ヴォイド-虚無の声」関連上映 ホー・ツーニエン映像作品選

開催日:6月26日(土)、27日(日)

入場者数:85人

上映作品:「ウタマー歴史に現れたる名はすべて我なり」「名のない人」「名をもつ人」「易经四十九卦」

●ジャン＝ポール・ベルモンド傑作選

開催日:7月7日(水)～18日(日)

入場者数:202人

上映作品:「大盗賊」「大頭脳」「恐怖に襲われた街」「危険を買う男」「オー!」「ムッシュとマドモアゼル」「プロフェッショナル」「警部」

●ボーダーレスな世界へ

開催日:7月21日(水)～8月9日(月)

入場者数:496人

上映作品:「ステージ・マザー」「僕が跳びはねる理由」「ミス・フランスになりたい!」「スタントウーマン ハリウッドの知られざるヒーローたち」

●バレエ界の鬼才マシュー・ボーンの傑作

開催日:7月21日(水)～25日(日)

入場者数:75人

上映作品:「マシュー・ボーンIN CINEMA 赤い靴」

●名匠ホン・サンス監督×主演キム・ミニ 最新作

開催日:7月29日(木)～8月8日(日)

入場者数:96人

上映作品:「逃げた女」

●「ナナナ祭2021」関連上映

開催日:7月30日(金)～8月9日(月)

入場者数:87人

上映作品:「74歳のペリカンはパンを売る。」

【関連】「74歳のペリカンはパンを売る。」を作った3人の男たちによるトークイベント

開催日:8月1日(日)

登壇者:渡辺陸、内田俊太郎、石原弘之

●過酷な状況が賛否を呼んだ衝撃作

開催日:8月4日(水)～9日(月)

入場者数:64人

上映作品:「異端の鳥」

●一周回って新たな発見

開催日:8月11日(水)～22日(日)

入場者数:108人

上映作品:「ファンタスティック・プラネット」「天井桟敷の人々(4K修復版)」

●戦後76年—これからを生きるあなたへ

開催日:8月11日(水)～20日(金)

入場者数:124人

上映作品:「おかあさんの被爆ピアノ」「8時15分 ヒロシマ 父から娘へ」

【関連】五藤利弘(「おかあさんの被爆ピアノ」監督)トークイベント

開催日:8月14日(土)

登壇者:五藤利弘

●山の上で真呼吸

開催日:8月11日(水)~26日(木)

入場者数:235人

上映作品:「ブータン 山の教室」

●今泉力哉監督特集

開催日:8月25日(水)~27日(金)

入場者数:68人

上映作品:「街の上で」「あの頃。」「his」「愛がなんだ」「mellow」

●熟年の青春=熟春

開催日:9月29日(水)~10月31日(日)

入場者数:196人

上映作品:「お終活 熟春!人生、百年時代の過ごし方」

●世界を震撼させた衝撃のリアリティーショー

開催日:9月29日(水)~11月23日(火)

入場者数:65人

上映作品:「SNS 少女たちの10日間」

●藤元明緒監督が写した日本の移民問題

開催日:9月29日(水)~11月28日(日)

入場者数:136人

上映作品:「海辺の彼女たち」「僕の帰る場所」

【関連】藤元明緒+藤原まみトークイベント

開催日:11月23日(火)

登壇者:五藤利弘、藤原まみ

●映画監督・降旗康男 終着駅までの軌跡

開催日:10月1日(金)~14日(木)

入場者数:310人

上映作品:「非行少女ヨーコ」「新網走番外地 流人岬の血斗」「地獄の掟に明日はない」「夜叉」「鉄道員(ぽっぽや)」「日本女侠传 真赤な度胸花」「あ・うん」「居酒屋兆治」「冬の華」「ホテル」「駅 STATION」

【関連】木村大作+金澤誠トークイベント

開催日:10月10日(日)

登壇者:金澤誠(映画ライター)、木村大作



撮影:塩見浩介

●映画館で体感すべき音楽映画特集

開催日:10月1日(金)~31日(日)

入場者数:480人

上映作品:「アメリカン・ユートピア」「ストップ・メイキング・センス」「アメイジング・グレイス / アレサ・フランクリン」

【関連】樋口泰人+湯浅学トークイベント

開催日:10月9日(土)

登壇者:樋口泰(映画批評家、ロック評論家)、湯浅学(音楽評論家)

●山口ゆめ回廊博覧会関連上映

開催日:10月13日(水)~14日(木)

入場者数:39人

上映作品:「An Empty Vessel 空の器」「セノーテ」

●韓国史劇エンターテイメント

開催日:10月20日(水)~31日(日)

入場者数:163人

上映作品:「王の願い ハングルの始まり」

●本をめぐる映画特集

開催日:11月3日(水)~14日(日)

入場者数:308人

上映作品:「ブックセラーズ」「つつんで、ひらいて」「まちの本屋」「世界一美しい本を作る男 シュタイデルとの旅」

【関連】カニエ・ナハ+広瀬奈々子(『つつんで、ひらいて』監督)対談

開催日:11月7日(日)

登壇者:カニエ・ナハ(詩人)、広瀬奈々子(映画監督)

【関連】大小田直貴(『まちの本屋』監督)+小林由美子トークイベント

開催日:11月13日(土)

登壇者:大小田直貴(映画監督)、小林由美子(小林書店店主)

【関連】映画を観て語ろう!「ブックセラーズ」上映記念座談会

開催日:11月14日(日)

登壇者:奈川和正(雨と夢の本屋店主)



撮影:塩見浩介

●日本映画から見えてきた風景

開催日:11月17日(水)~12月5日(日)

入場者数:354人

上映作品:「椿の庭」「街の上で」

●どこまでも深く、現代社会の心理をコマどる

開催日:11月17日(水)~12月5日(日)

入場者数:229人

上映作品:「JUNK HEAD」

●2夜限りのまじめに不真面目!on the beach!

開催日:11月19日(金)~20日(土)

入場者数:31人

上映作品:「ビーチ・バム まじめに不真面目」

●先駆者たちの大いなる光と陰

開催日:12月8日(水)~19日(日)

入場者数:152人

上映作品:「ミス・マルクス」「ココ・シャネル 時代と闘った女」

●命をつないだ勇者

開催日:12月8日(水)~26日(日)

入場者数:319人

上映作品:「MINAMATA—ミナマター」 「沈黙のレジスタンス ユダヤ孤児を救った芸術家」

●「HUMAN ODYSSEY -それは、創造を巡る旅。-/DIRECTOR'S CUT」特別上映会

開催日:12月10日(金)

入場者数:42人

上映作品:「HUMAN ODYSSEY —それは、創造を巡る旅。—/DIRECTOR'S CUT」

●優秀映画鑑賞推進事業 生誕111年 黒澤明 傑作4選

開催日:12月16日(木)~19日(日)

入場者数:316人

上映作品:「わが青春に悔なし」「酔いどれ天使」「天国と地獄」「羅生門(デジタル復元版)」

【関連】黒澤明の映画術

開催日:12月17日(金)

登壇者:西村雄一郎(映画評論家)

●90年代を駆け抜けたバンド、フィッシュマンズの軌跡

開催日:12月18日(土)~25日(土)

入場者数:72人

上映作品:「映画:フィッシュマンズ」

●韓国初登場NO.1エンターテインメント超大作

開催日:12月20日(月)~26日(日)

入場者数:104人

上映作品:「SEOBOK ソボク」

●ワイカムシネマの冬休み上映

開催日:12月22日(水)~26日(日)

入場者数:90人

上映作品:「ウルフウォーカー」

●つながって生きる

開催日:令和4年1月5日(水)~30日(日)

入場者数:347人

上映作品:「83歳のやさしいスパイ」「モロッコ、彼女たちの朝」

●アルコールから見えてくる実像

開催日:令和4年1月5日(水)~16日(日)

入場者数:186人

上映作品:「アナザーラウンド」「プロミシング・ヤング・ウーマン」

●映画館への招待状

開催日:令和4年1月5日(水)~30日(日)

入場者数:213人

上映作品:「浜の朝日の嘘つきどもと」「鯉のはなシアター」

●ポーランド映画特集

開催日:令和4年1月15日(土)~22日(土)

入場者数:233人

上映作品:「聖なる犯罪者」「イーダ」「私は決して泣かない」「灰とダイヤモンド」

【関連】オンライントークセッション

開催日:令和4年1月20日(木)

参加者:アダム・ミツキエヴィッチ大学日本文学専攻の学生、教員

●「Incomplete Niwa Archives-終わらない庭のアーカイヴ」関連上映

開催日:令和4年1月23日(日)~30日(日)

入場者数:118人

上映作品:「FIVE SEASONS ガーデン・オブ・ビート・アウドルフ」「動いている庭」

【関連】庭と映像／アーカイヴ

開催日:令和4年1月30日(日)

登壇者:澤崎賢一(アーティスト／映像作家)、エマニュエル・マレス(日本庭園研究者)、原瑠璃彦(日本庭園・能楽研究者／ドラマトゥルク)



撮影:ヨシガカスマ

●新しい日常を生きる決意

開催日:令和4年2月2日(水)~10日(木)

入場者数:237人

上映作品:「茜色に焼かれる」「東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート」「東京自転車節」

【関連】青山真也(「東京オリンピック2017 都営霞ヶ丘アパート」監督)トークイベント

開催日:令和4年2月2日(水)

登壇者:青山真也(映画監督／ドキュメンタリー映像作家)

●ホロコーストの真実

開催日:令和4年2月2日(水)~9日(水)

入場者数:116人

上映作品:「アウシュヴィッツ・レポート」

●展覧会「クリクラボー移動する教室」関連上映

開催日:令和4年2月16日(水)~26日(土)

入場者数:336人

上映作品:「くじらびと」「ジャングル・スクール」「虹の兵士たち」

【関連】宮本麗(「くじらびと」撮影スタッフ)トークイベント

開催日:令和4年2月20日(日)

登壇者:宮本麗

【関連】関連上映トークイベント

開催日:令和4年2月19日(土)

登壇者:レオナルド・バルトロメウス(キュレーター)

●巨匠フレデリック・ワイズマン監督 長編ドキュメンタリー2選

開催日:令和4年2月16日(水)~27日(日)

入場者数:121人

上映作品:「ボストン市庁舎」「ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス」

●「食と倫理リサーチ」関連上映

開催日:令和4年3月5日(土)~12日(土)

入場者数:231人

上映作品:「タネは誰のもの」「食の安全を守る人々」

【関連】山田正彦(「食の安全を守る人々」「タネは誰のもの」プロデューサー)トークイベント

開催日:令和4年3月9日(水)

登壇者:山田正彦(弁護士)

●私のアイデンティティー(存在証明)

開催日:令和4年3月5日(土)~21日(月)

入場者数:303人

上映作品:「パーフェクト・ノーマル・ファミリー」「TOVE／トーベ」「リトル・ガール」

●交差する人生を描く短編映画集

開催日:令和4年3月9日(水)~31日(木)

入場者数:245人

上映作品:「偶然と想像」「COME&GO カム・アンド・ゴー」

●時代を描写する

開催日:令和4年3月19日(土)~30日(水)

入場者数:161人

上映作品:「バツファロー'66」「ひとくず ディレクターズカット版」

●アート界の闇を暴く

開催日:令和4年3月23日(水)~31日(木)

入場者数:87人

上映作品:「ダ・ヴィンチは誰に微笑む」

●ワイカムシネマの春休み

開催日:令和4年3月26日(土)~31日(木)

入場者数:28人

上映作品:「サマーフィルムにのって」

[6] 施設利用状況

1 入館者数

月別内訳(人)

月	人数	月	人数
4月	31,678	10月	35,011
5月	32,192	11月	35,812
6月	31,782	12月	29,564
7月	42,255	1月	31,646
8月	37,174	2月	31,953
9月	13,374	3月	25,855
合 計		378,296 人	

2 見学・視察者数

月別内訳(人)

月	人数	月	人数
4月	9	10月	192
5月	1	11月	365
6月	15	12月	52
7月	54	1月	8
8月	17	2月	—
9月	100	3月	7
合 計		820人	

3 施設使用状況

施設	開館日数(日)	使用日数(日)	使用率(%)
スタジオ A	274	222	81.0
スタジオ B	274	112	40.9
スタジオ C	274	271	98.9
多目的室	274	197	71.9

※使用率は月ごとの使用率の平均値を記載しています。

[7] その他特記事項

1 広報・アーカイブ事業

内容:例年通り、Webやインフォメーションスペースにおいて、イベントの告知や、過去の作品内容の情報提供に努めました。また、YCAMの活動やイベントについて、スケジュールや具体的な内容、魅力を伝える「YCAM BOOK」を制作しました。

2 実習生受け入れ状況

●インターン

関西学院大学(1名)

期間:令和3年8月9日~9月19日

内容:YCAM InterLab課業務補助等

情報科学芸術大学(1名)

期間:令和3年9月1日~9月30日

内容:YCAM InterLab課業務補助等

主な関連新聞記事

2021 年4月 17 日 (土) YCAM シネマ 原一男監督トークイベント 宇部日報 2 面

2021 年5月 11 日（火） 第 6 回未来の山口の運動会 宇部日報 8 面

2021 年5月 21 日（金）ヴォイス オブ ヴォイド 西日本新聞 11 面

2021 年7月 13 日（火）YCAM Dance Crew 山口新聞 18 面

2021 年 9 月 21 日 (火) 搬入プロジェクト山口 中園町計画 朝日新聞 23 面



主
な
関
連
新
聞
記
事

2021 年 10 月 4 日 (月) 未来の山口の授業 at school 2021 中国新聞 19 面

2022 年1月 15 日（土） クリクラブ 産経新聞 22 面（共同通信配信）



主
な
関
連
新
聞
記
事

〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果

[参考資料] 山口情報芸術センターの活動成果

YCAM InterLabオリジナルプロダクション／対外効果

巡回

令和3年3月5日(金)～8月8日(日)

坂本龍一による中国での初個展にYCAM委託作品2作品を出展

2007年にYCAMで制作／発表された坂本龍一＋高谷史郎「LIFE—fluid,invisible,inaudible…」および、2013年にYCAMで制作／発表された坂本龍一＋高谷史郎「water state 1」が、北京の私設美術館・木木芸術社区(M WOODS HUTONG)で開催の、坂本龍一による中国での初個展「坂本龍一:观音听时 | Ryuichi Sakamoto:seeing sound,hearing time」において展示されました。

令和3年8月13日(金)～9月5日(日)

坂本龍一＋高谷史郎「water state 1」が東京で再展示

2013年にYCAMで制作／発表された音楽家の坂本龍一とアーティストの高谷史郎によるインスタレーション作品「water state 1」が、東京都墨田区で開催の「TokyoTokyo FESTIVALスペシャル13「隅田川怒涛」」において、展示されました。

令和3年10月1日(金)～24日(日)

ホー・ツーニエン「ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声」が京都で再展示

2021年にYCAMで制作／発表したホー・ツーニエンによるインスタレーション作品「ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声」が、京都府京都市で開催の「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2021 AUTUMN」において、展示されました。

令和3年12月7日(火)～令和4年4月10日(日)

ホー・ツーニエン「ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声」が大韓民国で再展示

2021年にYCAMで制作／発表したホー・ツーニエンによるインスタレーション作品「ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声」が、大韓民国仁川広域市で開催の、「仁川アートプラットフォーム Frequency of Tradition 展」において、展示されました。

その他

委嘱作品「without records」の修復・整理・保存

2008年にYCAMで制作／発表された音楽家の大友良英と美術家の青山泰知によるインスタレーション作品「without records」の修復／再制作を実施しました。

多数のポータブルレコードプレイヤーからなるこの作品は、大友が音楽を軸に美術へと越境し始めた時期の重要な作品です。

文化庁からの補助金を受けて、再展示可能な状態への復元・維持と、作品に関する資料整備及び権利関係の整備等に取り組みました。

「ビデオ・プリゼント」の成果をインターネットで公開

障害のある人々、そしてその保護者や支援者へ、映像制作の技術を手渡すプログラム「ビデオ・プリゼント」の成果を特設ウェブサイトで公開しました。

公開された12本の短編映像作品は、参加者が、スマホやタブレットを使って、「身の回りにある何気ない風景」や、「つつい注目してしまうものごと」を撮影し、ごく簡単な編集も加えたもので、いずれもバラエティ豊かな視点が含まれています。

主催:NPO法人脳損傷友の会高知青い空／中国・四国 Artbrut Support Center passerelle(パスレル)

YCAMが行う展覧会やイベントに関する調査・研究を実施

大学や民間の研究者をゲストに招いて、YCAMが行う展覧会やイベント来場者の鑑賞体験に関する調査・研究を下記のとおり実施し、学会発表という形でその成果を公表しました。

- ・研究会 8月2日、令和4年1月26日、1月31日
- ・体験調査 11月～令和4年2月
- ・成果公表 令和4年3月6日

※過去の成果、詳細については、山口情報芸術センターのウェブサイト(<https://www.ycam.jp>)をご覧ください。

令和3年度
山口情報芸術センター事業報告書



山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
information@ycam.jp
<https://www.ycam.jp>

[発行] 令和4年9月

公益
財団法人 **山口市文化振興財団**
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
zaidan-info@ycfcp.or.jp
<https://www.ycfcp.or.jp>